

耐震化と学校統合について

大規模な地震による倒壊等の危険性のある学校施設

H23.3 現在

(Is 値 0.3 未満) 湯屋小校舎、菅田小校舎
(Is 値 0.7 未満) 下呂小体育館、下呂中西校舎、竹原小校舎、竹原中校舎、下原小校舎、東第一小校舎及び体育館、尾崎小体育館

平成20年5月に中国で発生した「四川大地震」では、約7千の学校の校舎などが崩壊し、数千人の児童・生徒が犠牲になりました。これをきっかけに、日本では学校施設（校舎や体育館）の耐震化が一層進められることになりました。

学校施設は、児童・生徒が一日の大半を過ごす場であることから、その安全性の確保は極めて重要です。

教育委員会では、大規模な地震による倒壊等の危険性の高い学校施設について、市民の声を反映させて計画的な整備を図るため、21年5月に「学校施設整備検討委員会」を組織しました。

教育委員会では「建て替える」「耐震補強する」「安全な学校と統合する」の3つの対応策を示し、委員の皆さんに様々な観点から検討をいただきました。そして22年1月に同委員会から次のような答申を受けました。

●答申の主旨

- ①耐震性が基準に達していない学校教育施設は早急に何らかの対策を講じること。
- ②対策を検討する場合、教育的観点を最優先して検討すべきであること。
- ③統合という手法をとる場合は、地域住民等による十分な協議を経ること。

●教育委員会の考え方

市内の児童数は50年間で約4分の1以下となっており、教育委員会では、子どもにとって望ましい教育環境を整えていくという観点に立つて、まず十分な耐震性がなく早急な対応が必要な湯屋小学校と菅田小学校のある小坂と金山地域について、整備案をまとめ、住民の理解を得て進めることにしました。

●整備案

- ★平成24年4月に湯屋小と小坂小を対等統合（校舎は小坂小）
- ★平成25年4月に菅田小・東第一小・下原小・金山小を対等統合（校舎は金山小）

今後は学校規模の適正人数の検討も行いながら統合等も含めて学校施設の整備を図っていきます。

統合に向けてスタート

【湯屋小・小坂小】

教育委員会では小坂小学校と湯屋小学校の統合について、昨年3月からPTAや保育園の保護者、自治会連合会への説明を経て、地域住民の皆さんにも説明を行ってきました。

児童数が少なくなる中で「統合はやむを得ない」との意見が多く、湯屋小PTAでは統合の結論が出されました。7月16日に開催した「小坂地域懇談会」では、統合の準備を進めていくことが決定されました。

9月22日、統合準備委員会が発足。2月8日には小坂地域小学校統合委員会が立ち上げられました。今後、来年4月の統合に向けて、校歌・校章・PTAの運営や通学の方法などの協議が進められます。



第1回統合委員会

学校名は「小坂小学校」に統合準備委員会は、統合後の学校名について、「小坂小学校」とするよう教育委員会に要望しました。住民アンケートを行った結果、小坂地域全体を校区とする小学校であり、「小坂」の地区名を学校名にするのが一番ふさわしいとの結論になりました。

◆小坂地域の現状

▽湯屋小・児童数41人。現在4・5年生が複式学級。23年度は2・3年生と5・6年生が複式学級の予定で26年度には全学年が複式学級になる見込み。校舎は昭和29年建築の木造校舎です。
▽小坂小・児童数110人。

※Is 値: 建築物の強さを表すのに使う数値。国土交通省の基準では0・6 未満は「震度6強の地震で崩壊、倒壊する危険性がある」、0・3 未満は「危険性が高い」とされています。文部科学省は学校の建物を耐震補強する場合は、より安全な0・7 以上にするよう求めています。

金山地域の 学校統合について

教育委員会では、平成22年5月から各小学校PTAや各地区などで通算40回にわたって説明会を開き、金山地域の皆さんにお話ししてきました。

○PTAの動向

菅田小・東第一小のPTAでは保護者に統合に関するアンケートを実施した結果、半数以上の保護者が学校統合に肯定的な回答をしました。また、金山小と児童数が同じ下原小PTAでもアンケートを行った結果、「賛成」・「どちらか」という賛成「・」やむを得ない」と答えた保護者が全体の7割以上となりました。

金山小学校

金山小PTAの説明会では、受入れ側として精一杯努力したいとの意見が出されています。

○各地区の動向

東地区や菅田地区では賛否両論があります。金山地区では、金山小の校舎を使用する立場から反対する意見は聞かれていません。下原各区域での説明会では、大多数の賛同が得られました。住民からは「区として統合を望んでいた」「子どものために大所高所から統合を早急に進めてほしい」などのご意見をいただいています。

◆金山地域における現状

▽菅田小・児童数42人。
3・4年生で複式学級
▽東第一小・児童数65人。
今後複式学級ができる見込み
▽下原小・児童数100人。
▽金山小・児童数100人。下原小と金山小間の直線距離は約1.3kmで、市内で最も近距離にある。4校とも昭和56年以前に建築された校舎です。

■子どもたちにとって 望ましい教育環境とは、

文部科学省は平成20年に大規模な地震による倒壊等の危険性の高い(Is値0.3未満の)学校施設について、今後5年間(24年)をめどに耐震化を図ることを要請しています。

教育委員会の整備方針「統合」は答申にある教育的観点を最優先に考えた末の結論です。

下呂市は1学年1学級が多いですが、問題なのは極小学級です。人数がある程度いるときはいいですが、少なくなったとき「同性が1人」「同性ばかり」「同級生がいない」というのは子どもたちにとってどうなのでしょう。中央教育審議会は1学年1学級を維持できず複式学級となる場合の教育上の課題は大きいと言っています。さらに将来的にこのような状況が不可避である場合には、子どもの教育環境のために早期に適正配置の検討が望まれるとも言っています。

少なくとも複式学級となった場合、子どもたちのためにどうあることが望ましいのか、私たち大人は考えなければなりません。厳しい反対意見があることは承知していますが、10年後の子どもたち、親はどう思っているかを考えた時、私は「統合」はベストの方法だと思っています。

統合ということになれば、それに係わっての心配とか不安が出てきます。どういった問題点があるのか、統合委員会をつくり検討していただき、教育委員会では皆さんの意見を真摯に受け止めて誠実に応えていきたいと思っています。



下呂市教育長
長谷川 藤三

～ 統合を心配する声 ～

■統合すると、

▽きめ細かい教育ができなくなる。▽人数が増え、ちゃんと子どもを見てもらえなくなる。▽学校が遠くなり急に迎えに行けない。▽知らない金山地区で勉強するのは怖い。▽スクールバスで学校へ通わせるのが不安▽少ない児童のほうが勉強がよくできる。▽保育園、小学校、中学校と同じ顔ぶれになる。

■学校がなくなると、

▽地域の文化が消え、子どもの声が聞こえなくなる。▽地域で子どもを育てたい。▽地域性がなくなる。▽活気がなくなり過疎化に拍車がかかる。▽住民のコミュニティの場がなくなる。▽お年寄りとの交流がなくなる。▽避難場所がなくなってしまう。▽保育園も小学校もなくなると寂しい。

金山地域の皆さんへ アンケートにご協力を

金山地域の小学校統合に関するアンケート調査を、各小学校・金山保育園保護者、未就園児の保護者を対象に3月中に実施します。その結果をもとに最終的な市の判断をしたいと考えています。

皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

★市ホームページでは、小坂地域及び金山地域における「学校の整備統合」の説明会の会議録を掲載しています。